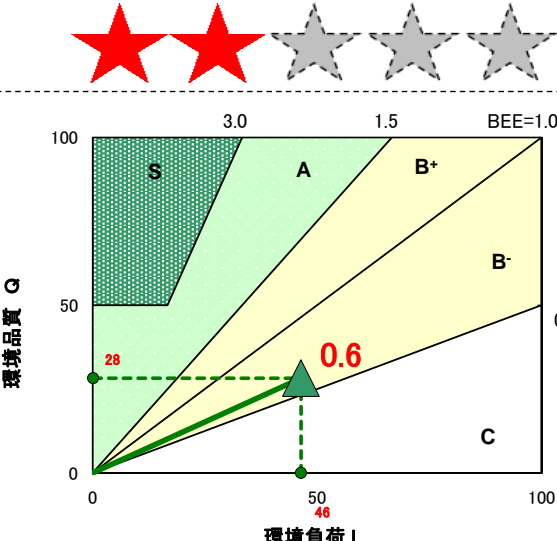


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	仮)熊本ロジネット菊池物流センター	階数	地上2F	 <p>外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けてください。</p>
建設地	熊本県菊池市泗水町吉富字中原 3	構造	S造	
用途地域	市街化区域、防火地域指定なし	平均居住人員	150 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2022年1月7日	
敷地面積	9,662 m ²	作成者	岩橋 弘幸	
建築面積	6,682 m ²	確認日	2022年1月7日	
延床面積	12,847 m ²	確認者	岩橋 弘幸	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 0.6

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

★★★☆☆

排出率

85%

















■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

85%

2 熊本県重点評価結果

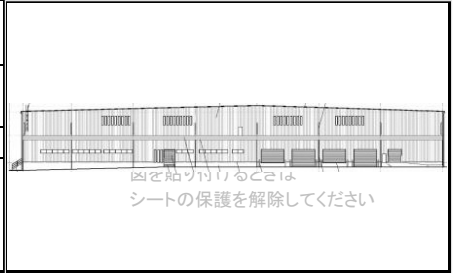
重点事項総合評価	評価点												
	71												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>81.0</p> <p>62.5</p> <p>57.5</p> <p>72.0</p>												
<p>■熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>		判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示												
100点以上													
80点以上100点未満													
60点以上80点未満													
40点以上60点未満													
40点未満													

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮)熊本ロジネット菊池物流センター	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池市泗水町吉富字中原3	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域指定なし	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2022年1月7日
敷地面積	9,662㎡	作成者	岩橋 弘幸
建築面積	6,682㎡	確認日	2022年1月7日
延床面積	12,847㎡	確認者	岩橋 弘幸



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.3

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 71

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 (評価点 = 81.0)

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 (評価点 = #####)

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 (評価点 = 57.5)

重点事項4: 循環型社会の実現 (評価点 = 72.0)

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・維持管理のしやすい設計

Q1 室内環境

- ・天井と壁は、吸音のためグラスウールを使用
- ・ハイサイドライトを設置し昼光を利用
- ・自然換気有効開口面積は、居室面積の1/20以上とした

Q2 サービス性能

- ・居室の天井高さは2.7mを確保
- ・階高は5.45m以上あり、ゆとりがある
- ・リフレッシュスペース（休憩室）あり、自動販売機あり
- ・S造のため、空間の形状・自由さが大きい

Q3 室外環境（敷地内）

- ・背の低いフェンスを使用し、防犯性に配慮

LR1 エネルギー

- ・BPI_m=0.75
- ・BEI_m=0.77

LR2 資源・マテリアル

- ・便所の洗面器は自動水栓を採用、節水に配慮
- ・発泡プラスチック系断熱材の使用なし
- ・軽量鉄骨下地を使用

LR3 敷地外環境

- ・燃焼機器の使用なし

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 仮)熊本ロジネット菊池物流センター

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		71
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81	0.40	32.40
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.3	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				57.5	0.20	11.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④)の項目

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
飯)熊本ロジネット菊池物流センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.1
Q1 室内環境					0.31		-		2.3
1 音環境				1.6	0.15		-		1.6
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40		-		
1.2 遮音				1.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				1.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				1.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		天井と壁にグラスウール使用		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				1.8	0.35		-		1.8
2.1 室温制御				2.7	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				2.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				1.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.0	0.25		-		3.0
3.1 昼光利用				4.0	0.30		-		
1 屋光率		2.2%		4.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 屋光利用設備		ハイサイドライト		4.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				2.0	0.30		-		
1 屋光制御				2.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
3.4 照明制御				3.0	0.25		-		
4 空気質環境				2.9	0.25		-		2.9
4.1 発生源対策				3.0	0.50		-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00		-		
4.2 換気				2.6	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積は、居室面積の1/20以上		4.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33		-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		2.9
1 機能性				2.5	0.40		-		2.5
1.1 機能性・使いやすさ				1.6	0.40		-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高: 2.7m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		①リフレッシュスペース(休憩室)あり ②自販機あり		5.0	0.33		-		
3 内装計画				1.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30		-		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.4	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高5.45m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:事務所0.1・工場0.05	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック使用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック使用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	1.3
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.75	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.77	3.3	0.62	-	-	3.3
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨下地	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	